



「公園での時間が日々の活力です」と大野さん

輝いています

蕨市民公園をきれいにする会 会長

ひと

おの しんいち 大野 伸一 さん

市民公園で地域の輪を広げる

今 月中旬に子どもたちに大人気の大型複合遊具がリニューアルオープンする市民公園。同遊具の整備に向けて、昨年開かれたワークショップの参加者の一人が自主管理団体「蕨市民公園をきれいにする会」の会長、大野伸一さん(73歳・塚越4丁目)です。43年前から蕨市に住み、休日に娘と遊んだり、ウォーキングをしたりと市民公園をよく利用していた大野さん。定年退職後、高齢者クラブの友人に誘われ入会し、過ごしやすい公園の裏には地域の人たちの力があつたのだと、感銘を受けました。その後は約70人の会の皆さんといっしょに「自分たちのまちは自分たち

できれいにしよう」と月1回の定例会や毎週土曜日の自主参加の活動で、掃除や花の水やりを行うなど美化活動に励んできました。そのなかで、捨てられた空き缶やタバコなどを見つけ、心を痛めることもありましたが、「少しでもごみを捨てる人が減るように」と、地道に活動を続け、昨年には、地域を愛する大野さんにぜひ、と会長を任せられました。

一方で、蕨市ゲートボール連盟の会長も兼任し、平日は毎朝、市民公園の多目的広場で仲間たちと汗を流しています。そのときも、全員で広場や周辺の落ち葉を集めており、自分たちの使う公園をきれいにするという思いは地域に根付いています。「多くの人がちが同じ気持ちになったら更に良い公園になりますね」と目を細めます。

大野さんにとって市民公園は地域の皆さんとつながる場で、家族との思い出が刻まれたたいせつな場所でもあります。「訪れた人たちの笑顔を見ると自分のことのようにうれしいですね」とにっこり。これからも地域の輪を広げながら、誰もが気持ちよく過ごせる公園を目指していきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.65—

暁斎の娘で日本画家の暁翠による鳥図です。父の暁斎が明治14年(一八八一)に第二回内国勸業博覧会に出品した鳥の図が日本画の最高賞を受賞したことから、娘の暁翠も鳥をしばしば描いています。本図の鳥は暁斎より丸みを帯び、朱色の蔦を配して墨の黒色とのコントラストを図るなど、暁斎の作品を単に模倣するのではないところに、暁翠の絵師としての気概がうかがえる作品です。



暁翠筆「蕨に鳥」
絹本墨画淡彩 額装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁翠作品展 -花鳥風月、そして美人-」
同時開催 特別展「百花繚乱 河鍋暁斎の展覧会ポスター」展

開館 = 午前10時～午後4時 ところ = 南町 4-36-4
休館 = 火・木曜日、毎月26日～末日
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円
65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳細 = 同館 ☎441-9780



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)